

会 議 録

会議録	平成28年度 第2回 豊田市公共交通会議
次 第	<ol style="list-style-type: none">1 開 会2 会長あいさつ3 議 事<ul style="list-style-type: none">【協議案件】(1) 基幹バス、地域バス等の運賃体系について (介護者及び付添い人の人数制限の設定)(2) 基幹バスの路線改編について<ul style="list-style-type: none">◆藤岡・豊田線(加納経由)(3) 地域バスの路線改編について<ol style="list-style-type: none">①藤岡地域バス「三箇線、西市野々線」(路線定期運行)②藤岡地域バス「川口・飯野線」(路線定期運行)③松平地域バス「日明ジュリナ線」ほか(路線定期運行)④松平地域バス(区域運行)⑤旭地域バス「生駒線、築羽線、敷島線」(路線定期運行)⑥旭地域バス「旭線」(路線不定期運行)⑦足助地域バス「通学線」(路線定期運行)⑧小原地域バス(区域運行)⑨下山地域バス(区域運行)(4) 鞍ヶ池公園園内周遊バスの路線改編について(5) 地域公共交通確保維持改善事業について【報告案件】(1) 地域バスの路線改編について<ul style="list-style-type: none">◆水源東バス(2) F Cバス(燃料電池バス)の運行について4 その他<ul style="list-style-type: none">・平成28年度利用状況について・名古屋 COI 拠点事業について・バスの運行事業者選定状況・«参考情報»民間主体による地域の移動支援事例・次回、会議の開催日時について(予定)5 閉 会

日 時	平成28年12月16日（金） 午後1時30分～午後3時30分
場 所	豊田市役所 南庁舎5階 南51会議室
出席者 (敬称略)	<p>【委員】 荻野 弘 (豊田工業高等専門学校) 野田 宏治 (豊田工業高等専門学校) 浅井 聡 (国土交通省中部地方整備局名古屋国道事務所) 古橋 靖弘 (国土交通省中部運輸局愛知運輸支局) 桑原 良隆 (愛知県振興部交通対策課) (代理：瀬古) 高嶋 敏博 (愛知県豊田加茂建設事務所) (代理：加藤) 坂部 哲也 (愛知県豊田加茂建設事務所足助支所) 柿本竜一郎 (愛知県警察足助警察署) 羽根 博之 (豊田市都市整備部) 鈴木 義金 (豊田市区長会) 釘宮 順子 (とよた市民活動センター運営協議会) 諏訪 洋 (豊田市PTA連絡協議会) 土居 友二 (豊田商工会議所) 加藤 憲治 (愛知県タクシー協会) 古田 寛 (公益社団法人 愛知県バス協会) (代理：金丸) 深町 明弘 (愛知県交通運輸産業労働組合協議会) 堀田 大祐 (名古屋鉄道株式会社) 近藤 博之 (名鉄バス株式会社) (代理：加藤) 境 政義 (豊栄交通株式会社) (代理：横田) 安達 雄彦 (愛知環状鉄道株式会社)</p> <p>【事務局】 豊田市 都市整備部交通政策課</p>
資 料	1. 次第 2. 平成28年度 第2回 豊田市公共交通会議 会議資料 3. 当日配布資料：資料【参考1】当日差替え

(要約)

議事

【協議案件】

(1) 基幹バス、地域バス等の運賃体系について（介護者及び付添い人の人数制限の設定）

○事務局 【資料1】に基づき説明。

意見等なし。

<協議結果：全員賛成>

(2) 基幹バスの路線改編について

◆藤岡・豊田線（加納経由）

○事務局 【資料2】に基づき説明。

○委員 バス停環境は整えてもらえるということで良いか。

○事務局 待合環境として、バス停の上屋や仮設トイレ、駐輪場を設置していく。

○委員 臨時バス停の近くに支所も移設されるということか。

○事務局 支所は現在の敷地内にある駐車場のあたりに建設されていくため、支所の位置そのものは変わらないと考えていただきたい。

<協議結果：全員賛成>

(3) 地域バスの路線改編について

①藤岡地域バス「三箇線、西市野々線」(路線定期運行)

○事務局 【資料3-①】に基づき説明。

○委員 利用者はどのようなルートで臨時バス停を行き来するのか教えていただきたい。

○事務局 川沿いの堤防道路を通過してバス停に向かうことを想定している。

<協議結果：全員賛成>

②藤岡地域バス「川口・飯野線」(路線定期運行)

○事務局 【資料3-②】に基づき説明。

意見等なし。

<協議結果：全員賛成>

③松平地域バス「日明ジュリンナ線」ほか(路線定期運行)

○事務局 【資料3-③】に基づき説明。

○委員 今までの道路を払い下げということか。

○事務局 市道だったが一般の方へ払い下げとなる。九久平築場交差点の改良に伴い、県道岡崎足助線に右折レーンが設置され、拡幅されることに伴い、払い下げが生じる。払い下げとなる道路を挟んだ両隣の土地は所有者が同じ方である。

<協議結果：全員賛成>

④松平地域バス(区域運行)

○事務局 【資料3-④】に基づき説明。

○委員 バス停設置場所は民地か。

○事務局 幸穂台ふれあい橋は緑地であり、緑の推進課と調整済み。ガードレールの外側に設置する。

<協議結果：全員賛成>

⑤旭地域バス「生駒線、築羽線、敷島線」(路線定期運行)

○事務局 【資料3-⑤】に基づき説明。

○委員 利便性向上のためにバス停を新設するのはとても良いことだが、利便性向上のためであれば、新設に伴ってバス停を廃止する必要はないと思う。

○事務局 今回廃止するバス停は、交差点付近にあり危険性を伴う。また、このバス停付近に民家もないことから、廃止とさせていただきたい。

<協議結果：全員賛成>

⑥旭地域バス「旭線」(路線不定期運行)

○事務局 【資料3-⑥】に基づき説明。

意見等なし。

<協議結果：全員賛成>

⑦足助地域バス「通学線」(路線定期運行)

○事務局 【資料3-⑦】に基づき説明。

○委員 バス停の新設等に伴う占用の申請やガードレールの撤去など、調整は進めているか。

○事務局 今回新設するバス停25か所のうち24か所は、地域巡回線で運用しているバス停であり、既に承認をいただいている。残り1か所「水洗」バス停については、設置箇所が市道であるため、市土木管理課に確認を取り、承認済みである。

<協議結果：全員賛成>

⑧小原地域バス（区域運行）

○事務局 【資料3-⑧】に基づき説明。

意見等なし。

<協議結果：全員賛成>

⑨下山地域バス（区域運行）

○事務局 【資料3-⑨】に基づき説明。

○委員 バス停を新設することによって、利用者がどの程度増えることを見込んでいるのか。

○事務局 下山地域バスはエリア内を運行する区域運行や、ダイヤと経路を決めている路線定期運行など形態は複数あるが、どれくらい利用者が見込めるのかは都市部山間部という違いも含めて様々となってくる。今回のバス停新設については、利用者が日あたり数人いるということ想定した提案と捉えている。

<協議結果：全員賛成>

(4) 鞍ヶ池公園園内周遊バスの路線改編について

○事務局 【資料4】に基づき説明。

○委員 パークトレインは公道を走れないバスなのか。

○事務局 園内のみ運行をしており、遊具ということで料金を徴収している。

○委員 これまでの利用者の利便性をどのように考えるか。

○事務局 パークトレインはもともと短い距離での運行であったが、県道道路の完成に伴い延伸が可能となった。実際の公園利用者は歩いて移動される方が多く、バスは遊具として使われていることから、これまでの利用者の状況を見ても大きく利便性が損なわれることはないとしている。

○委員 今後、交通学習センターと一体的に運用していくことなども捉えておいでんバスの改編も考えてもらえると良い。

○委員 廃止後、バスの使い道は決まっているのか。

○事務局 廃止後の車両は藤岡地域バスでの活用を考えており、そして、藤岡地域バスの車両をおいでんバスで運用していきたいと考えている。市の中で一体的に検討している。

<協議結果：全員賛成>

(5) 地域公共交通確保維持改善事業について

○事務局 【資料5】に基づき説明。

質問等なし。

<協議結果：全員賛成>

【報告案件】

(1) 地域バスの路線改編について

◆水源東バス

○事務局 【報告1】に基づき説明。

質問等なし。

(2) FCバス（燃料電池バス）の運行について

○事務局 【報告2】に基づき説明。

質問等なし。

その他

・平成28年度利用状況について

○事務局 【参考1】に基づき説明。

- 委員 IC 利用割合が伸びているとのことだが、利用者全体が増えているのかどうか、昨年度同時期と比較してどのような状況か。
- 事務局 4～10月の利用者数を前年度と比較すると5.4%増である。その中でIC乗車も徐々に浸透してきている状況。

・名古屋 COI 拠点事業について

- 名大 【参考2】に基づき説明。
- 委員 今後のロードマップを教えてください。
- 名大 平成28年度は足助地区と旭地区で実証を実施し、今後は稲武地区でも実証を実施していく。平成30年度までの3年で、実装に向けた機能拡充と持続可能性を検証していきたい。
- 委員 この実証で期待される効果について説明をお願いしたい。
- 名大 地域バスや乗合タクシー、あすけあいカーというモビリティ手段によって、行政補助がどの程度削減できるか検証したい。また、外出頻度が増えれば来院回数は減るといった結果もあることから、本人の医療費負担減といつまでも健康で過ごせることも目的のひとつとしている。
- 委員 この研究は中山間地が対象のようだが、将来は都心部でも実施されるか。
- 名大 今作っているシステムが、そのまま都心部で導入できるかという点と違っていると感じている。地域のニーズに応じて、様々な移動手段をブレンドして提供していくことが求められると考えており、そのなかで都心部でもニーズがあれば実証を検討していく。横展開も整理しながら、持続性を課題として考えている。
- 委員 研究終了後、運営していくのはどこが主体となるのか。
- 名大 現在のプロジェクトメンバーである名大、東大、豊田市、足助病院、地域住民の代表で協議会を設置し、実施事項を決定していきたいと考えている。運営についてはNPOもしくは地域の方が良いのかどうか、この3年で整理をしていく。
- 事務局 豊田市も交通を切り口に交通まちづくりビジョンと行動計画を既に持っている。基本計画の公表時とほぼ同時期に策定・公表し、現在推進している。このプロジェクトと同じように超高齢社会を見据えて、外出機会を増やすことで健康維持を図ることや観光という切り口を追加し、公共交通の利用促進を進めたいと考えている。公共交通はほぼ赤字運営で、行政の負担が大きくなっているのが現状である。COIと一緒に検討していただくだけでなく、自家用有償運送など現行制度の様々な運行形態やタクシーも公共交通と位置づけ、新しい活用方法も検討をしていきたいと考えている。次の時代を見据え、最終的に山間地だけにとどまらず、全市的な取組としていきたい。

・バスの運行事業者選定状況

- 事務局 次第裏面に基づき説明。

・「参考情報」民間主体による地域の移動支援事例

- 事務局 次第裏面に基づき説明。

・次回、会議の開催予定について

- 事務局 次回会議は、平成29年2月9日（木）開催を予定している。

以上